

各 位

東京都中央区日本橋 1 丁目 4 番 1 号
 日本橋一丁目ビルディング (コレド日本橋)
株式会社 シンプレクス・テクノロジー
 代表取締役社長 金子 英樹
 (コード番号: 4340 東証 1 部)
 アドミニストレーショングループ
 問い合わせ先 執行役員 澤田 正憲
 T E L 03-3278-6750 (代表)

通期業績予想 (連結・個別) の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 1 月 28 日に公表した通期の業績予想を下記のとおり修正します。

記

1. 平成 21 年 3 月期 通期連結業績予想(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

連結業績予想数値の修正

(金額の単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 21 年 1 月 28 日発表)	11,500	2,510	2,500	1,475
今回修正予想(B)	11,942	2,510	2,500	1,189
増減額(B-A)	442	—	—	△286
増減率	3.8%	—	—	△19.4%
(ご参考): 前期 (平成 20 年 3 月期連結) 実績	8,128	2,081	2,074	1,234

2. 平成 21 年 3 月期 通期個別業績予想(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

個別業績予想数値の修正

(金額の単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 21 年 1 月 28 日発表)	11,500	2,510	2,500	1,475
今回修正予想(B)	11,942	2,510	2,500	1,219
増減額(B-A)	442	—	—	△256
増減率	3.8%	—	—	△17.4%
(ご参考): 前期 (平成 20 年 3 月期) 実績	8,128	2,082	2,106	1,228

3. 特別損失の発生及びその内容

平成 21 年 3 月期第 4 四半期決算において、財務健全化を図るため以下の特別損失を計上する必要が生じました。

科目／金額	内 容
投資有価証券評価損 345 百万円	時価が著しく下落している投資有価証券の減損処理を実施したもの
仕掛品評価損 230 百万円	顧客側の事情により開発を停止している開発途中のプロジェクトがあり、今後の継続可能性及び代金回収の確実性を見積った結果、当該プロジェクトの仕掛品残高全額を評価損計上したもの
その他特別損失 59 百万円	その他に財務健全化を図るために計上したもの
特別損失合計 636 百万円	

4. 修正理由

当期は、シンプレクス・テクノロジー本体の売上が、FX 取引システムを中心としたインターネット取引システムの販売が好調で、業績が前回予想を上回って推移しております。

売上高につきましては、2009 年 1 月公表の前回予想をさらに上回り 11,942 百万円（前回予想比＋3.8%、前年同期比＋46.9%）となる見込みです。売上高の上方への業績修正は今期 2 度目となります。

売上高は予想を上回って推移しておりますが、来期以降の成長への布石として研究開発費への追加投資を積極的に実施したため、営業利益および経常利益についてはほぼ前回予想通りとなる見込みです。

一方、上記の通り財務健全化を図るため特別損失を計上した結果、前回発表の当期純利益を 19.4% 下回る結果となる見込みです。

通期個別業績予想の修正理由は連結と同じです。

なお、配当につきましては、前回発表の通り 1 株当たり 260 円の配当を予定しております。

5. 役員賞与の全額カット

平成 21 年 3 月期の業績は好調に推移いたしましたが、上記の特別損失が生じた結果、当期純利益は当初見込みを 19.4% 下回る結果となる見込みです。

2002 年の上場以来、当期純利益における初めての減益という結果を経営陣一同真摯に受け止め、その経営責任を明確化するため当期限りの措置として、取締役及び執行役員全員の平成 21 年 3 月期賞与を全額カットし、支給金額をゼロとすることを決定いたしました。

今後は全社一丸となり、業績拡大に邁進していく所存でございます。

以 上